

葛西臨海水族園と海遊館で希少種の人工繁殖について共同研究 ミナミイワトビペンギンの雛が6羽誕生 凍結保存の精子を用いた人工授精の成功を目指しています

海遊館（大阪市港区）では、2019年6月6日（木）から6月8日（土）にかけて、ミナミイワトビペンギンの雛が合計6羽誕生しました。そのうち5羽の雛は、一般公開中の「フォークランド諸島（マルビナス）」水槽にて、子育ての様子を間近にご覧いただけます。また残りの1羽は、バックヤードで飼育員が親わりとなる人工育雛を行っています。

海遊館と葛西臨海水族園（東京都）では、国内での飼育数が減少傾向で、野生でも絶滅の恐れがあるミナミイワトビペンギンについて、2016年に液状保存の精子を用いた本種の人工授精に世界で初めて成功しました。その後、2017年に共同研究契約を締結し、さらに技術発展させた、凍結保存の精子を用いた人工授精を試みてきました。今回誕生した雛のうち4羽は、葛西臨海水族園で飼育中のミナミイワトビペンギンから採取した精子を液状または凍結保存し、海遊館で人工授精を行った親鳥から生まれています。この雛のDNAを鑑定し、オス親が葛西臨海水族園で飼育している個体であると判明すれば、凍結保存の精子を用いた人工授精の成功となり世界初の成果です。DNA鑑定の結果は、本年7月中旬に判明する予定です。葛西臨海水族園と海遊館では、ミナミイワトビペンギンの繁殖生態を解明し、人工繁殖技術の確立とその普及により、種の保存に貢献してまいります。



ミナミイワトビペンギンの雛（6月7日撮影）

【取材のご案内】

雛は小さく、親鳥のお腹の下に隠れているため、毎朝行う体重測定時の撮影をご案内いたします。取材をご希望の際は、事前にご連絡ください。

【お問い合わせ】

海遊館 広報チーム 06-6576-5529

■今回誕生したヒナについて

	産卵日	孵化日	体重 (g)	
			孵化時	6月10日時点
①	5月4日	6月6日	78.5	173.9
②	5月2日	6月6日	64.1	159.6
③	5月6日	6月6日	68.1	178.0
④	4月29日	6月7日	55.8	66.4
⑤	5月3日	6月8日	55.1	82.5
⑥	5月7日	6月8日	69.0	71.0



雛の体重測定の様子（6月7日撮影）

■人工授精の実施について

今季は4月末～5月初旬、葛西臨海水族園（東京都）で飼育しているミナミイワトビペンギンから採取し、液状または凍結保存の処理後に輸送した精子を用いて、海遊館の計2羽のメスに対して人工授精を実施しました。

メス親	精子の処理	人工授精の実施日	産卵日	孵化日	備考
R301	凍結保存	4月25、27、28日	4月29日	6月7日	世界初の可能性
			5月4日	6月6日	世界初の可能性
R300	液状保存	4月25、28日	5月3日	6月8日	2016年の手技再現
			5月7日	6月8日	2016年の手技再現

■凍結保存の精子による人工授精の意義について

人工授精の技術を確立し、技術が普及することで、国内外の水族館や動物園におけるペンギン類の繁殖を向上させることができます。さらに精子の凍結保存の技術が確立できれば、半永久的に凍結された精子（遺伝子）を保存できるため、絶滅の恐れがある野生下のミナミイワトビペンギンの種の保存に貢献することができます。

■ミナミイワトビペンギンについて

フォークランド諸島（マルビナス）など南極周辺の島々に生息し、体長は約50cmでペンギンのなかでも小型の種。岩場を飛び跳ねながら移動することからこの名前が付いた。目の上にある黄色い冠羽が特徴。沿岸の岩場の小石や雑草で巣を作り、メスは1回の繁殖で通常2個の卵を産む。ペンギンの中では気性がやや激しい。小魚やオキアミなどを食べる。IUCN（国際自然保護連合）が定めるレッドリストにて、絶滅危惧種に指定されている。

海遊館のミナミイワトビペンギンは、飼育総数26羽（メス8羽、オス12羽、不明6羽）。今回誕生したヒナを含む。